

活動状況等報告③ 地域振興



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. 地域振興ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

2025年1月7日に、関連する短期目標の達成に向けた現在の進捗状況を共有し、今後の斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上および、大型水鳥類を活用した観光振興について意見交換を行った。

日 時	2025年1月7日（火）14:00～16:00		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊	
	（一社）出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一	
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	花形 泰道	
	（一社）出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一	
	（株）山陰中央新報社 編集局政経部 デスク	舟越 幹洋	
	矢田醤油店	矢田 敦子	
	出雲の国ジオガイドの会 会長 日御碕ビジターセンター 主任	渡邊 一枝	
	出雲市 総合政策部政策企画課	加村 光夫	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
議題	①斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想と地域振興ワーキングについて ②斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上に向けた取組について ③大型水鳥類を活用した観光振興について ④取組の支援体制について ⑤2025年度以降の展開について		

(2) 主な議事内容

◆斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上について

- ・ 認知度向上に向けた取組報告、今後の取組について意見交換を行った。
- ◇ワーキングメンバーからの意見等
- ・ SNSのフォロワー数など定量的な情報があると良い。
 - ・ 小中学校の「ふるさと教育」や公民館での生涯学習の場などを活用してはどうか。
 - ・ 行政機関だけが情報発信するのではなく、民間でも協力できるような連携が取れるとよい。
 - ・ アドベンチャーツーリズムで参加費の一部が保全活動に還元されるようなツアーを検討中であり、水鳥プロジェクトと連携できると幅が広がると考えている。

◆大型水鳥類を活用した観光振興について

- ・ 斐伊川河口ツアーの今後の実施体制および、中海エリアにおける2024年度の取組予定について報告、意見交換を行った。
- ◇ワーキングメンバーからの意見等
- ・ ツアー運営にあたっては運営費用やガイドの確保が課題であり、行政や関係団体からの財政的支援があるとよい。
 - ・ （中海エリアで民間事業者主催による取組が行われていることをうけて）水鳥プロジェクトの取組に参画する民間事業者が増えていくことで、地域の大型水鳥を守る活動が活発で楽しいものになるとよい。

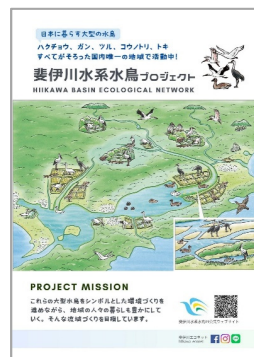
◆斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上について

認知度向上に向けたツール作成・商品開発支援等

<パネル作成>

◆2023年度に作成した、生態系ネットワークイメージ図を、斐伊川水系水鳥プロジェクトPRパネルとして活用。

◆パネルはイベント出展時に使用。



<商品開発支援>

◆コーヒー焙煎と、無農薬・冬期湛水による田んぼづくりに取組む「つちのと舎」(雲南市)が、コウノトリやトキの保全に貢献する取組に協力したいとのことから、有機認証生豆を原料に使ったコーヒー「珈ノ時」の商品開発を行い、2025年1月に完成。



(パッケージデザイン等の協力を実施)

◆パッケージデザインはサントリー世界愛鳥基金((公財)日本鳥類保護連盟申請事業)を活用。

<連携商品の販売促進支援>

◆昨年度に引続き、しふおんながた(安来市)が、ハクチョウ米粉パンを販売。

- ・期間:2025年1月~2月の土日限定
- ・場所:道の駅あらエッサ



事業者や大学等への働きかけ

<(株)出雲村田製作所・(株)島根島津・島根富士通(株)への連携提案>

*3社は2022年6月に「地域創生SDGsプロジェクト」を始動。3社共同プロジェクトとして、若手社員を中心に活動。

*2023年6月に、同プロジェクトの環境チームが、出雲市トキの野外放鳥プロジェクトへの協力を発表。

◆協力・連携について提案

- ・3社によるトキプロジェクトの取組サポート
(ビオトープ整備、生き物調査、パネル貸出、講師派遣等)
- ・水鳥プロジェクトとの連携
(3社内での各種水鳥プロジェクト普及啓発等)

◆2024年度はビオトープ整備、生き物調査について助言等のサポート実施

◆2025年度3社プロジェクトの計画の中に提案事項が一部反映

- ・大型水鳥パネルの活用
- ・社食における環境保全米の使用



生き物調査の様子

<島根大学「島根学」講座での水鳥プロジェクトの紹介>

◆島根大学において学生約120名を対象に、斐伊川流域の大型水鳥類の視点から見た島根の自然について講義を実施

日時:2024年10月25日(金)13:00~14:40

場所:島根大学松江キャンパス

内容:島根の自然を知る

~斐伊川流域の自然と生態系ネットワークの取組~

斐伊川水系 水鳥プロジェクトの普及啓発に向けたイベント

<第1回やすぎシグナスフェスティバル>

◆地域住民の音楽への関心を高めるとともに地域文化の発展に寄与することを目的としたイベントを安来市で開催

◆イベント名の「シグナス」はハクチョウの学名からとったもの

◆実行委員会からの申し出を受け、水鳥プロジェクトブースを出展

◆ポスター、チラシ、チケットに水鳥プロジェクト シンボルマークと応援メッセージを掲載

◆ブースではパネル展示、水鳥缶バッジガチャを設置
(※協力事業者が連携商品(ハクチョウ米粉パン、コウノトリ米粉クッキー、コーヒー、Tシャツ)を販売)

イベント名	第1回やすぎシグナスフェスティバル
日 時	2025年6月1日(日) 10:30~16:30
会 場	安来節演芸館(安来市)
主 催	やすぎシグナスフェスティバル実行委員会
共 催	安来節演芸館
後 援	安来市 (一社) 安来市観光協会 (公財) 日本生態系協会



私たちは
斐伊川水系水鳥プロジェクトを
応援しています



<斐伊川放水路記念館まつり 土木の日イベント>

イベント名	斐伊川放水路記念館まつり(土木の日)
日 時	2024年11月16日(土) 9:30~13:00
会 場	斐伊川放水路記念館(出雲市)
主 催	土木の日実行委員会

【出展内容】

- ・パネル展示
- ・水鳥クイズ
- ・缶バッジ・水鳥カード配布

<出雲ふるさと応援マルシェ>

イベント名	出雲ふるさと応援マルシェ
日 時	2024年11月16日(土) 10:00~15:30
会 場	道の駅湯の川(出雲市)
主 催	(一社) 出雲観光協会

【出展内容】

- ・等身大水鳥パネル展示
- ・コウノトリ米粉クッキー配布
(アンケート協力者)
- ・水鳥缶バッジ配布
(クイズ正解者)

<その他関係主体によるイベント>

イベント名	主催	開催日時・場所
子ども探検スクール ※斐伊川水系水鳥プロジェクト 開催協力	中海・宍道湖・ 大山圏域市長会	2024年11月23日 宍道湖会場 2024年12月1日 中海会場
令和6年度ラムサール条約湿地 「宍道湖・中海」パネル巡回展 ※斐伊川水系水鳥プロジェクト のパネルも多数展示	島根県	2024年9月~12月 (松江市、出雲市、安来市、 雲南市、奥出雲町、境港市)
ラムサール条約湿地 宍道湖・中海 水鳥観察会	島根県	2024年12月14日 中海コース 2024年12月21日 宍道湖コース

◆大型水鳥類を活用した観光振興について

＜斐伊川河口エリア＞

◆斐伊川河口ツアーは、これまで出雲観光協会が主催し、ガイドも担ってきたが、専門ガイドの検討を含めて実施体制の見直しが課題となっていた。

◆2025年度より、斐伊川河口水鳥観察ツアーの主催を「出雲観光協会」から「出雲国ジオガイドの会」に引継ぐ。

◆2024年度はジオガイドの会の会員を対象としたガイド研修会を実施した。

◆ジオガイドの会が主催することで、水鳥の観察・解説だけでなくジオの解説を加えた新たなプログラム造成が可能となり、集客範囲の拡大が期待される。

「出雲国ジオガイドの会」



島根半島・宍道湖中海ジオパークの認定ガイドの会。
2020年4月結成。

イベント名	斐伊川河口マガン観察ツアー ガイド研修会
日 時	2024年12月21日(土) 15:00～18:30
集合場所	集合：道の駅湯の川 現地：斐伊川河口
参加人数	出雲の国ジオガイドの会 会員6名
協 力	斐伊川水系 水鳥プロジェクト



◆今シーズンは11月～12月の計5回の開催を企画中。

今後の方向性

大型水鳥類を活用した観光振興

- ・ 出雲国ジオガイドの会による斐伊川河口ツアー実施に向けた準備を進める。
- ・ 安来まちゼミの展開拡大（夏講座の新規実施等）に向けた検討を行う。

＜中海エリア＞

◆昨年度に引続き「安来まちゼミ」の一講座として「知っているようで知らないハクチョウ講座」を開催。

◆主催の矢田醤油店（安来市）が講師を担当し、2回開催。

◆参加者へのお土産として。生きものカード、缶バッジの他、連携商品とのコラボとして「ハクチョウ米粉パン」（しふおんながた、安来市）を配布。

イベント名	安来まちゼミ「知っているようで知らないハクチョウ講座」
日 時	2025年1月28日(火)・31日(金) 17:00～18:30
集合場所	安来市 宇賀荘交流センター
参加人数	1月28日：4名 1月31日：1名
参加費	300円（味噌汁材料代）
主 催	矢田醤油店
協 力	斐伊川水系 水鳥プロジェクト
講座内容	・ 交流センターでハクチョウについてレクチャー ・ 近隣のふゆみず田んぼに移動し、ハクチョウのねぐら入りを観察

学ぶ 14 知っているようで知らない ハクチョウ講座

1月30日(火) 17:00～18:30
会場/宇賀荘交流センター (安来市宇賀荘町) 会場費 5台

安来市民にはお馴染みの渡り鳥ハクチョウについてのマニアックなお話をします。その後はハクチョウのねぐら入りを一緒に見学し、あったか～い味噌汁を飲みましょう♪

- 対象：どなたでも
- 定員：5名または3組
- 持ち物：双眼鏡があればお持ち下さい
- 材料費：300円(食料代として)
- 講師：佐藤伸彦・矢田敦子

矢田醤油店
安来市中津町134 ☎ 2～3台 【休日】日曜・祝日
申込 0854-22-2338 受付 9:00～17:00



認知度向上に向けた取組

- ・ より効果的な普及啓発ツールの検討を行う
- ・ 地元団体・地元事業者等との継続的な連携と、広報の強化を図る

事業目的・背景・課題

- 三大都市圏への需要の偏在が深刻化。全国津々浦々に観光による経済効果を波及するためには、地域の多様な観光資源を生かした観光コンテンツの造成を更に進め、来訪目的の創出が必要。
(国内外の観光客の地方誘客を促進するため、本事業では、インバウンドに限らず国内観光客の地方誘客に資する観光コンテンツの造成を行うことができます。)
- 個人手配化・オンライン手配化への急激な転換といったコロナ後の状況を踏まえ、観光コンテンツの造成だけでなく、適切な販路開拓や情報発信も含めた総合的な支援が必要。

事業内容

- 将来に亘って持続的に地方誘客が促進されるよう、地域資源を活用した収益性が高く独自性・新規性のある観光コンテンツの開発から、適切な販路開拓や情報発信の総合的な支援を行い、中長期に亘って販売可能なビジネスモデルづくりの支援を実施。

事業スキーム

- 事業形態：間接補助事業 400万円まで定額、400万円を超える部分については補助率1/2
(補助上限：1,250万円、最低事業費：600万円)
- 補助対象：国→民間事業者（事務局）→地方公共団体、DMO、民間事業者等

2. 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会による地域づくりの取組



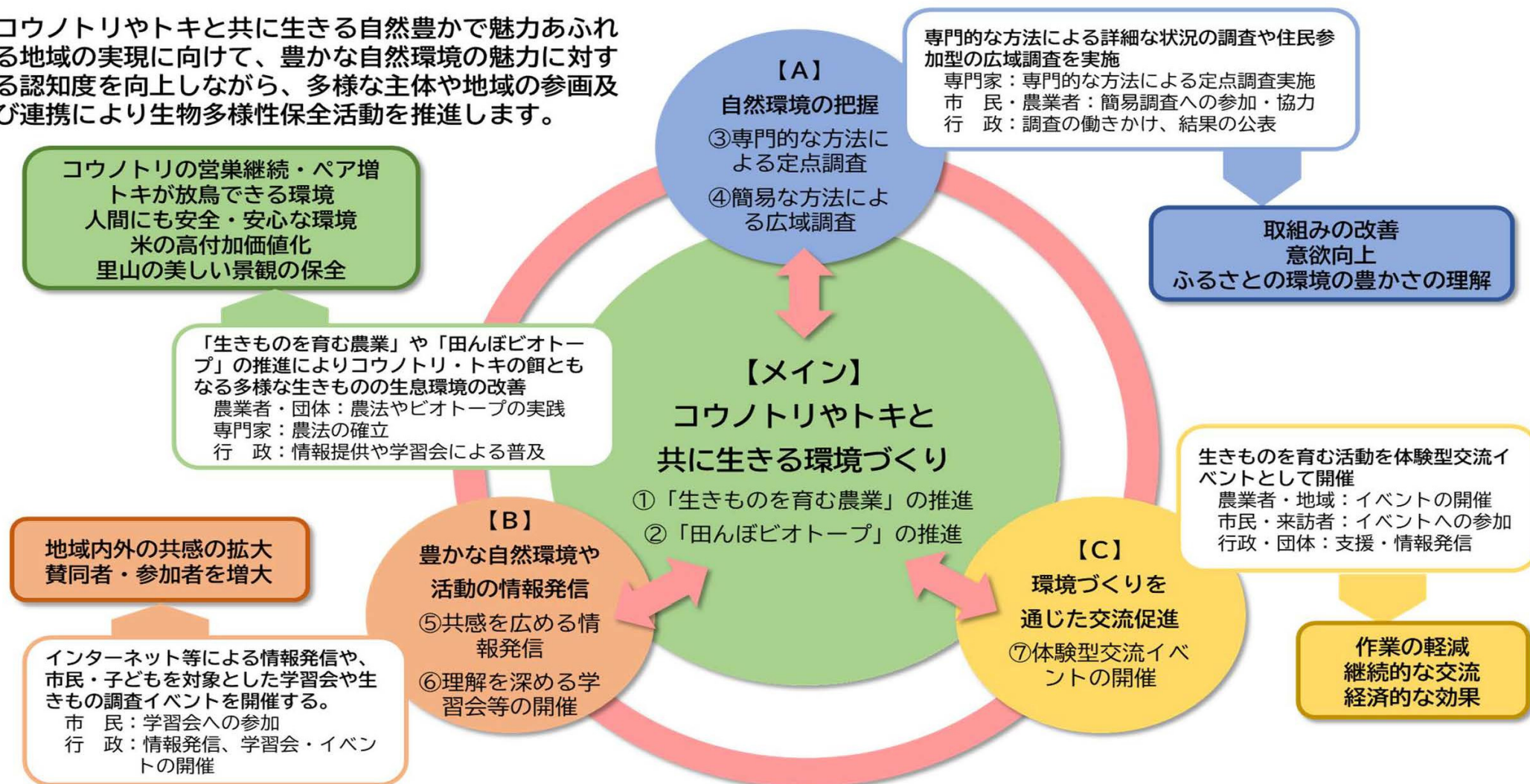
コウノトリやトキと共に生きる環境づくり 地域づくりの取り組みについて



出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会

事務局：雲南市・出雲市・島根県環境生活部

コウノトリやトキと共に生きる自然豊かで魅力あふれる地域の実現に向けて、豊かな自然環境の魅力に対する認知度を向上しながら、多様な主体や地域の参画及び連携により生物多様性保全活動を推進します。



■地域づくりの取り組み① 情報発信

出雲市トキまなびパネル



ノベルティグッズ（クリアファイル・マスキングテープ作成）



雲南市コウノトリまなびパネル



島根県ラムサールパネル展示



■地域づくりの取り組み② 体験・学習会

学校や公民館での講座開催



(キコニアまなびネットさん)



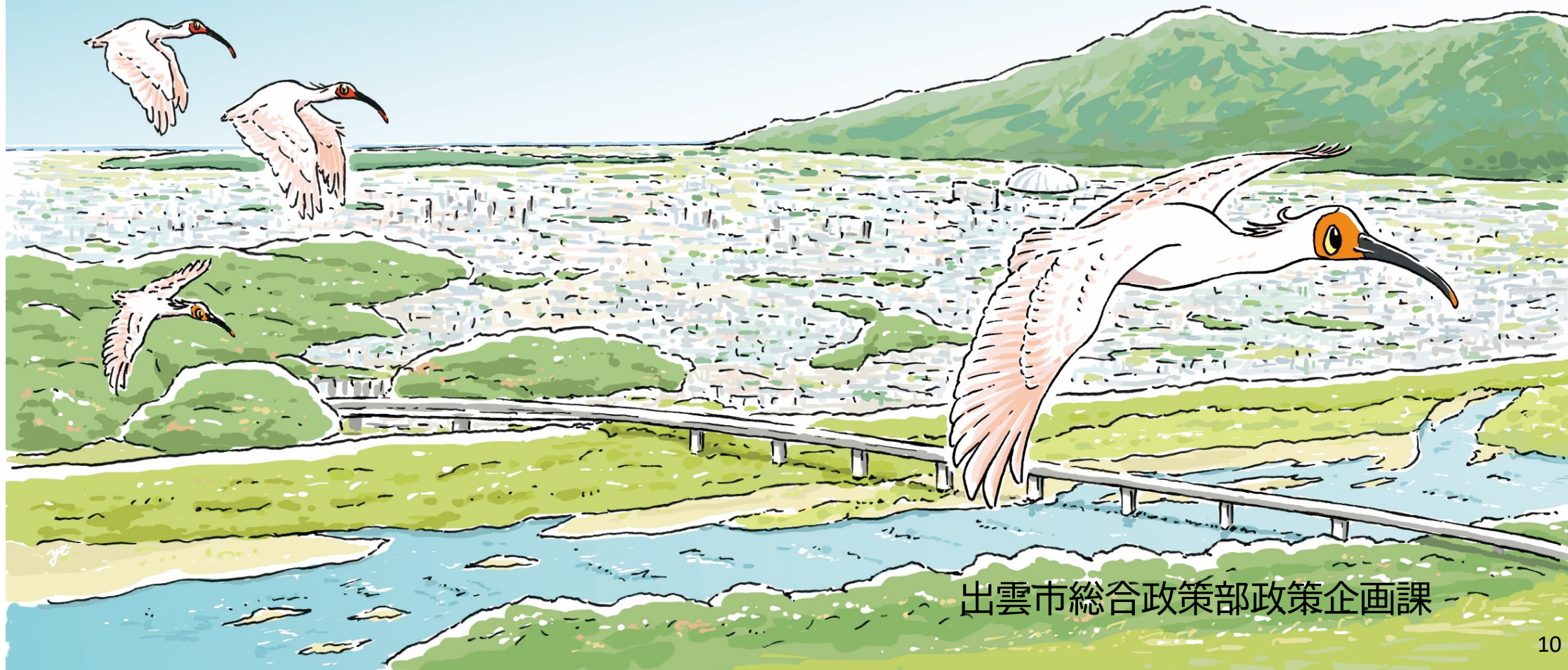
生きものを育む活動の担い手の育成を意識した学習会 (ヒツジグサ観察会)



親子を対象とした生きもの調査イベントの開催

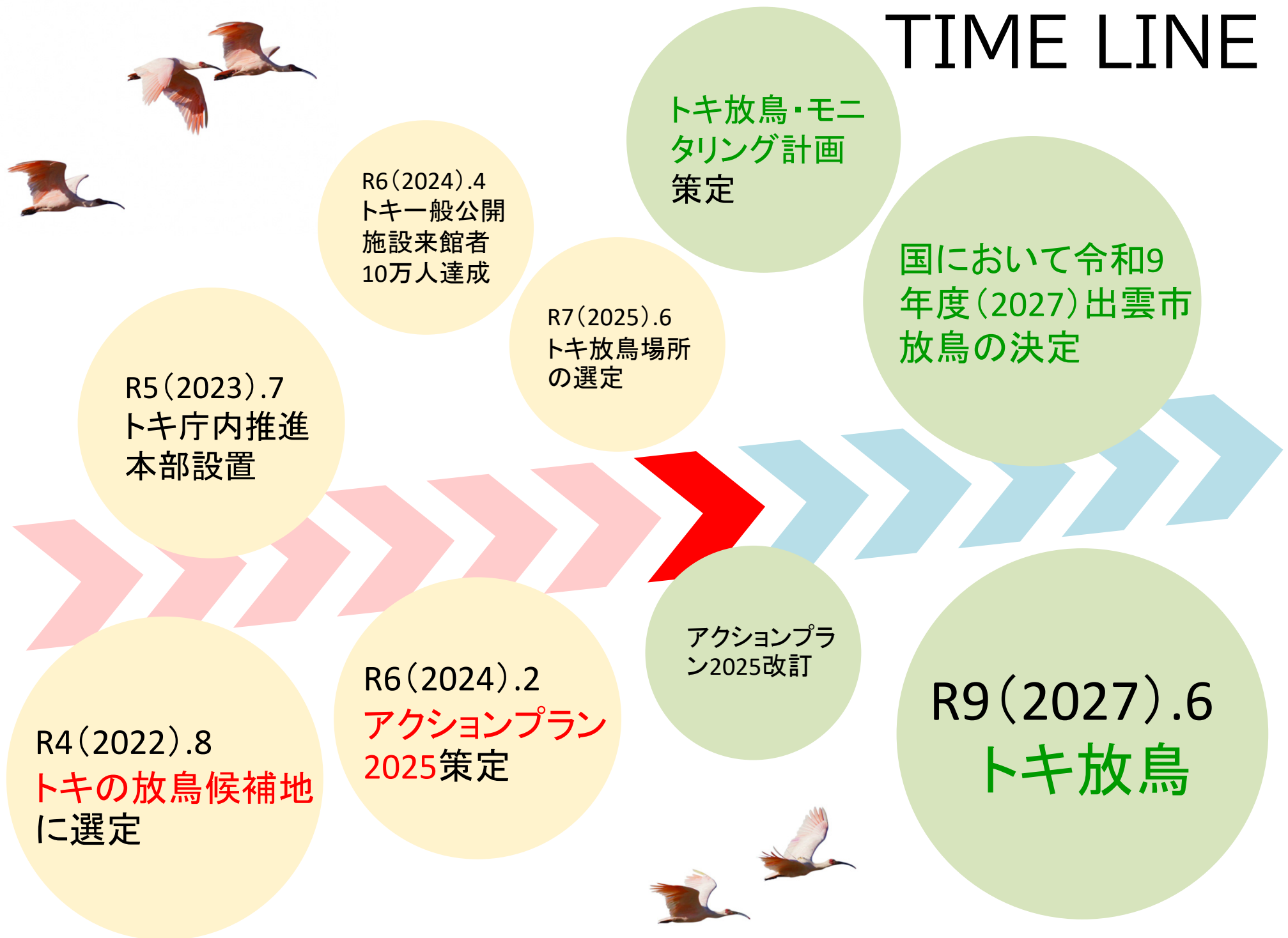


出雲市トキによるまちづくり



出雲市総合政策部政策企画課

TIME LINE



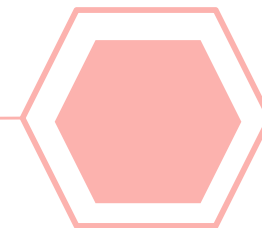


令和6年2月策定

出雲市トキによるまちづくり構想 アクションプラン2025

放鳥目標年度

令和9年度放鳥を目指す

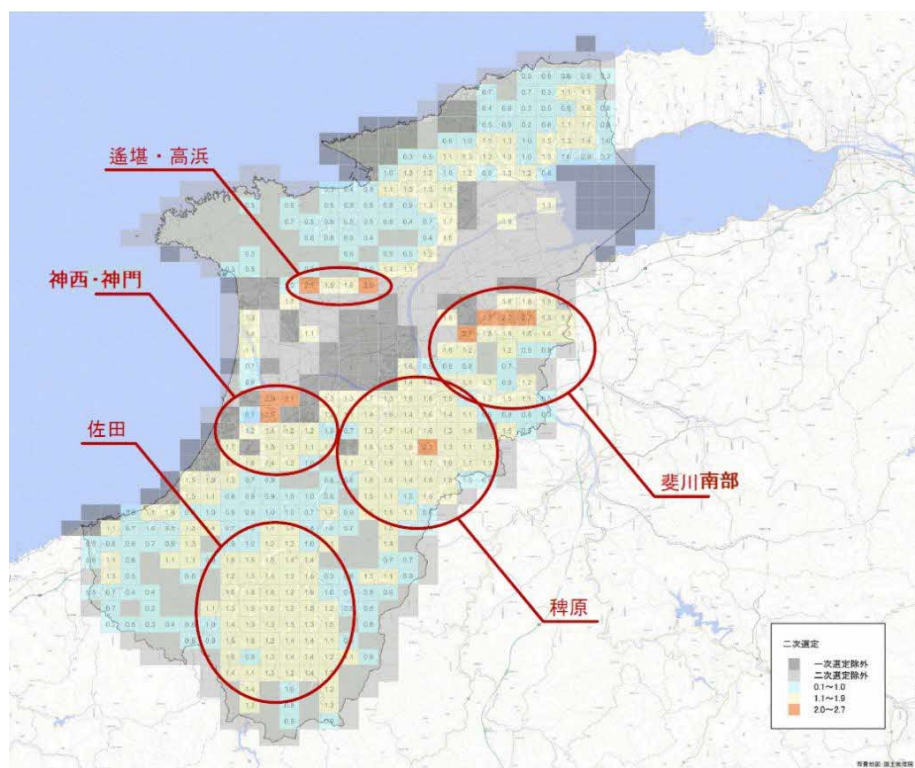


計画期間

令和5年度～令和7年度 短期実施計画
令和8年度～令和12年度 中長期構想

国が示す「本州におけるトキの放鳥要件等」を満たすための事業、及び令和9年度放鳥に向け、市、市民（農業者含む）、団体等が一層取り組むべき事業について、追加又は充実させるため、現在、出雲市トキによるまちづくり庁内推進本部において、改訂に向け協議・調整中。

出雲市内の生息適地



【令和4年度】

環境基礎資料を基に、トキの生息に好適な採餌環境、営巣環境等の潜在性の高い5エリアを選定

【令和5年度】

5エリアの現地調査を実施

- ①森林の実態調査(大径木の有無、餌場との距離等)
- ②餌場の観察調査(水路形態等)

【令和6年度】

放鳥適地5エリアにおいて、水田の湛水期における食物資源量の事前調査を実施。一番優れていた稗原地区において、餌資源量の通年調査を実施(令和7年1月～令和7年12月) ※現在も調査中

【令和7年度】

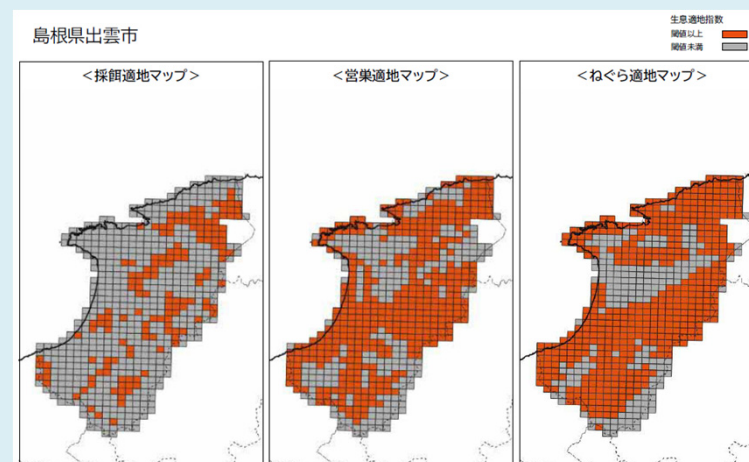
初回の放鳥場所として、稗原地区を選定。地元説明会を実施し、餌場環境の重点整備等の協力を依頼



トキ生息ポテンシャルマップ（環境省作成）

採餌適地マップ、営巣・ねぐら適地マップ

佐渡市内で取得された採餌しているトキの位置情報、トキの営巣・ねぐらの位置情報と景観要因を用いて、潜在的な生息適地を出雲市に当てはめたマップ



機運醸成・
普及啓発

普及啓発の強化・価値観の共有化
若年層に向けた発信力の強化



■シンポジウムの開催

令和6年度は佐渡市長を講師に迎え、シンポジウムを開催。パネルディスカッションには、飯塚市長に加え、雲南市長や環境省・国交省の職員等が出演。当日は約130人が来場された。また、出雲ケーブルビジョンで全編繰り返し放送を実施した。



■トキのオリジナル絵本作成

幼少時からトキに愛着を持っていただくために、オリジナル絵本を作成。図書館をはじめ、保育所、幼稚園、小学校、子育て関連施設、コミセン等に設置。現在、3歳児健診時に受診者全員にプレゼント。



■啓発パネルの作成 小中学校に掲出

子ども向けに、トキの生態を季節別にまとめた啓発パネルを作成。ポスターにして8枚1セットを希望する小中学校に設置。また、学校によっては授業に活用。



■水辺からはじまる生態系ネットワーク

出雲河川事務所と連携し、雨水田んぼや秋耕回避の影響調査を実施。また、第9回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラムに、市長がパネリストとして参加し、市の取組を発表。

生息環境の
整備

環境にやさしい農業の推進
生息環境整備に向けた取組



■環境にやさしい農業研究会

環境にやさしい農業技術体系・農産物のブランド化戦略の検討を実施するとともに、トキの生息環境に資する水田管理の実証試験を実施。あわせて、実証栽培結果を踏まえ、栽培暦の素案を作成。



■通年湛水箇所の整備

斐川南部エリアにおいて、地域の営農組合や日本鳥類保護連盟、日本生態系協会と連携し、水田内に通年湛水箇所となる江を設置。また、市単独で個人が行うビオトープ整備を支援。



■餌資源量調査の実施

稗原地区野尻町内の水田18か所において、季節ごとの調査を実施中(通年)。餌となる生物を捕獲し、餌となる生物の生息密度(個体数、湿重量)を調査し、調査範囲の餌資源量を推計。



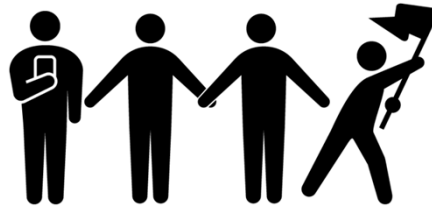
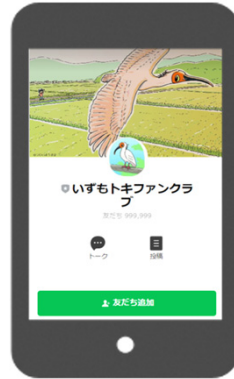
【調査対象水田の 카테고리 설정】

農法	カテゴリー
慣行栽培	江あり・江なし
特別栽培(化学農薬・肥料5割減)	江あり・江なし
無農薬栽培	江あり・江なし

放鳥要件である、放鳥前の佐渡との餌資源量を比較すると、冬季調査においては、佐渡を若干上回る結果となった。
※佐渡と出雲は、調査地点が異なるため、条件をそろえて比較

人的交流・
地域活性化

つながる人の輪
トキを出雲市の新たなブランドへ



■いずもトキファンクラブの設置

公式LINEアカウントサービスの活用により、専用アカウントを設置し、プッシュ型で情報発信。情報発信にあたっては、NPO法人いずも朱鷺21や出雲村田製作所・島根島津・島根富士通で構成する運営協議会を設置し、官民連携で情報発信を行う。



作製物イメージ※写真は他団体が実施したブルーライトアップ

■トキ色ライトアップ事業

市のイメージカラー「トキ色」を通じて、トキを知るきっかけづくり、トキの放鳥に向けた機運醸成を図る。今年度は、市民参加型のライトアップイベント「竹あかりワークショップ」を実施する予定。



■企業によるトキ応援活動

出雲村田製作所・島根島津・島根富士通が3社共同で実施する普及啓発事業や餌場環境整備事業、また、フジトランスポートのラッピングトラックなど、地元企業と連携した取組を実施。また、支援企業を市のホームページや広報紙に掲載し情報を発信。



放鳥・モニタリング計画

放鳥に係る体制づくり



第31回放鳥で設置した仮設ケージ



第31回放鳥の仮設ケージ内のトキの様子

仮設ケージのサイズ
横幅：19.8m
奥行：9.0m
高さ：3.6m

■放鳥方法の検討

国の方針は、仮設ケージからのソフトリリースでの放鳥が原則であることから、環境省と意見交換をしながら、稗原地区内において、候補地について検討を進める。また、令和6年度に職員研修として、佐渡での放鳥作業に参加。

■放鳥後のモニタリング体制の検討

国から示されたモニタリング方針について、出雲市トキ野生復帰アドバイザーと意見交換を行い、課題整理に向けた調整を開始。

■放鳥後の傷病個体等の対応

県に対し、傷病個体の体制構築に向けた県、市及び近隣自治体の連携体制の強化を要望。

国の本州におけるトキの放鳥要件等(一部抜粋)について

①自然環境

- ・餌資源量調査の実施されている
- ・餌資源量が放鳥開始時の佐渡島と同程度ある
- ・ねぐらに適した場所が佐渡島と同程度ある
- ・トキの生息に適した環境保全型農業等が実施されている

②社会的な状況

- ・シンポジウムの開催や広報物の作成など地域のトキ野生復帰に対する意識が醸成されている

③放鳥に係る体制

- ・放鳥の実施に係る体制、放鳥後のモニタリング体制、トキの傷病等の緊急時の体制が整備されている

4. 雲南市による地域づくりの取組



“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり

雲南市政策企画部地域振興課



雲南市でのコウノトリの様子・活動内容

- 平成21年(2009年)3月雲南市内でコウノトリが飛来した最初の記録が確認されている
- 雲南市で初めてコウノトリが営巣したのは平成29年(2017年)
- 令和7年(2025年)まで9年連続、41羽が巣立つ
- 6年連続(2017~2022年)、毎年4羽ずつの子育て記録は日本一
- 雲南市内には4塔の人工巣塔がある(その内、営巣したのは、西小学校巣塔・大東交流センター巣塔・加茂町神原巣塔の3塔)
- 巣塔がある西小学校は毎年全学年でコウノトリの学習を実施
- 西小学校で学習成果の発表とヒナの愛称提案会を実施
(提案会に合わせ市民公募した愛称も発表)
- 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会に参画





“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するアクションプラン

基本方針(ビジョン)	事業内容
コウノトリの保護に関する基本的な取り組み	①保護活動 ②観察ルールの周知 ③自然環境の保護 ④水辺環境の整備 ⑤愛称募集
1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり (1)学習・情報発信 (2)生きものを育む農業の推進 (3)生物多様性の保全	(1)⑥市報等での情報発信 ⑦定点カメラの活用 ⑧施設等での展示 ⑨学習会の開催 ⑩団体等による学習会の開催の支援 ⑪生きものに関する学習の推進 (2)⑫水田農業の維持・推進 ⑬環境に配慮した農業の推進 (3)⑭生息環境に関する調査 ⑮調査・研究の積極的な受け入れ ⑯耕作困難な水田のビオトープ化の推進 ⑰OECMの設定
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環 (1)イメージの活用 (2)産業分野での活用	(1)⑱ロゴマークの活用促進 (2)⑲生きものを育む農業・農産品の情報発信 ⑳商工会との連携による商品開発支援 ㉑ガイドの育成 ㉒教育旅行誘致
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり	㉓市民・団体等の協力体制の拡大 ㉔クラウドファンディング型ふるさと納税の実施 ㉕コウノトリ関連の商品の収益の循環 ㉖専門機関・関係団体等との連携 ㉗事業の進行管理



アクションプラン事業 取り組みの様子

もっと知りたい
コウノトリ
パンフレット
全10ページ



ロゴマークの作成・利用



コウノトリ学習(西小学校)



小中学校に関連図書設置



西小学校巣塔のヒナ

雛番号	雛名	お父さん	お母さん
J0832	ほたるハウス1号 (大東町)	えすこ	えすこ
J0833	西小学校のみなさん	ピース	ピース
J0834	西小学校のみなさん	かなで	奏

大東交流センター巣塔のヒナ

雛番号	雛名	お父さん	お母さん
J0870	もりもり1号 (大東町)	だいと	だいと
J0871	大東小学校のみなさん	かいと	海飛
J0872	大東小学校のみなさん	みく	美空

神原巣塔のヒナ

雛番号	雛名	お父さん	お母さん
J0926	藤原美さん (五方町)	あまね	天音
J0927	加茂小学校のみなさん	しんら	神来

愛称市民公募・提案会



足環装着、健康観察



ビオトープ草刈り(企業ボランティア)

